

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174100545		
法人名	有限会社ライフプランニング		
事業所名	グループホームひだまりの丘(ユニット1)		
所在地	北海道釧路市白樺台2丁目8番20号		
自己評価作成日	平成 30年 11月 20日	評価結果市町村受理日	平成 31年 3月 22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL
http://www kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&Jig_yosyoCd=0174100545-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	札幌市北区麻生町5丁目2-35コーポラスひかり106号
訪問調査日	平成30年12月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

閑静な住宅街の中にあり、過ごしやすい立地です。
季節ごとのイベント、行事も楽しんで頂けるように、職員全員頑張っています。
施設提携の病院、歯科も近くにあり、いつでも往診してもらえます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、太平洋炭鉱団地に隣接した「白樺台団地」の閑静な住宅街の中にある木造平屋建てで、中央の玄関を挟み左右に1ユニットづつに別れている。広い廊下、居間、居室等は天窓付きで明るく柔らかい日差しが入り、温・湿度は適正に管理され、清潔でゆったりとした共用空間となっている。管理者が看護師の資格を有し、看護師時代からの拘りで作った思いは車いす利用者が利用し易い広さを維持して、更にテラスへ出られる出入り口が設置されている。利用者は地域の盆踊りや花火大会、地域の湖水祭りを見学に行くなどして地域と交流している。また、事業所行事「夏祭り」には町内会役員などが参加したり、地域住民と一緒にになって畠の手入れを行ったり、地域のボランティアのフラダンスが来訪して交流している。市役所主導型の「おたっしゃクラブ」には積極的に参加すると共に、行事参加への呼びかけやビラ配布にも熱心に取り組んで地域の一員として活動している。職員は利用者個々の健康状態を把握して、精神面、身体面を見守り、日常的に事業所内の器具を使って楽しみながら身体機能を高めるよう支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており、信頼関係ができる (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆっくりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが抜がつたり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価 外部評価	項目	自己評価	外部評価	
		実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営				
1 1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、職員で理念の唱和を行う事で、共有を図っている。	地域密着を掲げた独自の理念を廊下や居間に掲示して、毎朝ミーティング時に管理者と職員は唱和して、ケアに反映させている。毎年見直しに取り組んでいる。	
2 2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的にボランティの訪問があります。地域の病院やスーパー、美容室等を利用しています。	地域住民との相互交流及び認知症の理解が得られており、地域の盆踊りや花火大会の見物に行ったり、事業所の夏祭りに地域住民が参加したりと交流を深めている。	
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアや学生の職場体験時に説明し、理解してもらえるように、説明している。		
4 3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な会議の場で、参加されている方々から、意見を頂くようになっています。又反映出来るように努力しています。	地域包括支援センター職員、町内会、地域知見者、元民生委員、家族、ボランティア等が参加して、年6回開催している。会議では地震時の火災想定避難訓練等の事業所活動報告やヒヤリハット、事故報告も行い、意見や助言を得てサービス向上に繋げている。家族へは広く知らせている。	
5 4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて、連絡、調整を取っています。	市の担当や地域包括支援センターとは、介護保険の更新や生活保護手続等について意見や助言を得ている。また、市主導の「おたっしゃクラブ」サービス事業があり、地域への広報活動や積極的に参加している。	
6 5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な会議を行い、拘束を行い職員全体へ、主旨を徹底している。日中は施錠せず自由にできるようにしています。	定期的な会議を通して、拘束に関する防止や対処方法を話し合っており、4月からは身体拘束に関する委員会活動を開催している。運営推進会議ではその活動も報告している。SOSネットを通じて徘徊への配慮も積極的に取組んでいる。	
7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	これも毎月の会議で、周知している。精神的にも虐待にならないように周知しています。		

グループホームひだまりの丘(ユニット1)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は実際に後見人がついている方もおり、現場にて制度の学習等が出来ています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に至るまでは、サービス内容と料金面、ご家族からの困っている部分を納得出来るまで話し合い、締結しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	必要な物資を届けていただいたり、会議に参加して頂くため、意見を頂く機会は多く、反映できるように配慮しています。	家族の来訪時に意見や要望を得ている。来訪しない家族とは電話を通じて情報の入手に努めている。特に、家族が面会に来た際に時間を取ってもらい、利用者の情報、要望等を聞き取りして運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見は貴重なため、必要なアイデアは取り入れるように心がけています。	職員とは日々の連絡業務日誌を通じて意見や提案を把握し、随時その都度提案された事項は即取り上げ運営に反映させている。職員間のコミュニケーションが取れているため、事業所内の風通しが良い状況を維持している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働くよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則にのっとり実施しています。賃金面が充実できるように、努力しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	多忙なため、実際に外部の研修量は減退している実情ですが、必要性の高い研修には出来る限り時間を調整出来るように配慮します。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在はあまりありません。		

グループホームひだまりの丘(ユニット1)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居直後は特に多くの声かけや見守りをおこなっています。生活のパターンが有る程度固定するまで、全職員で観察をしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	常に聞き入れて、ケアに反映出来るようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の動きや、言動からも何が必要なのかを判断し、ご家族と相談しながらケアをしています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事は奪ってしまわないように心がけています。出来る範囲を知って行動していただくようになっています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との接する時間は大切にし、自室にての会話や時間が許せば、病院や買い物の同行もお願いしたりしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外では、知人の来所はほとんど無い状態。外出先も買い物や通院程度に限られている。	美容室などの馴染みの場所への外出は職員が付き添い、来訪者がある場合は、落ち着いてゆっくり過ごせるよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が孤立しないように、声かけを積極的に行い配慮している。入居者同士の会話の支援も行っている。		

グループホームひだまりの丘(ユニット1)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	要望があれば対処するが、現在はそういった事例は無い状態です。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成にあたり、生活の希望を伺い、取り入れるようにしています。	日々の関わりの中から、利用者一人ひとりの思いや意向を把握するよう努めており、把握したことについては職員全体に周知し支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供所からと、本人から聞き取りすることで、情報把握をおこなっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々観察し状態の把握につとめています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員からのアセスメントを元に、計画の作成をおこなっています。大きな変化があれば、即座に反映させるようにつとめています。	利用者や家族の意見と要望を基に月1回カンファレンスを行い、計画は6ヶ月毎に見直しを行い利用者や家族等の確認を得ている。また、利用者の状況の変化に応じて、随時介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の観察記録と全員が閲覧する、ノートで情報の共有化を行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況により、適切な対応が出来るように努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	周りが住宅地のため、日常的に散歩をしたり、毎日体操をするなどして、身体を使う事を心がけています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	時には家族と受診してもらったりしながら、近隣の病院と関係作りを行ったりしています。	利用者、家族の希望に添ったかかりつけ医の受診は基本的には家族対応での受診になっているが、職員が付き添い受診することもある。協力医の往診は月2回あり、利用者の健康管理を行っている。	

グループホームひだまりの丘(ユニット1)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に行ってています。毎日の健康状態のチェックで把握しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院との連絡は、必要分だけ取り合い、入居者の早期退院に繋がるように努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、もしくは入居中に本人、家族からの同意を得ています。また病院とも相談し、最適な生活状態になるように努めています。	重度化した場合の対応については契約時に利用者や家族に説明を行い、同意を得ている。看取りりの経験を通して、研修を実施し学びの機会となっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル整備はあるが、どこまで対応出来るかは不明な部分もある。簡単な応急手当は可能です。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練で、家族やボランティアの参加もあり、協力体制は十分ではないかと思われる。	夜間を想定した避難訓練を年2回実施して、地域住民やボランティア等との協力体制を取っている。また、今回の胆振東部地震によるブラックアウトの経験を通して、中長期的な災害対策を築くきっかけになっている。	冬期間の地震やブラックアウト時の災害対策について、事業所が取り組むべき課題を掘り下げながらマニュアルや備品・備蓄等の災害準備を構築することを期待する。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員が配慮し行っています。	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシー、接遇や言葉づかいに配慮している。面会簿や記録帳票類も適切に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	働きかけを行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る様に配慮していますが、十分ではない部分も多いかと思っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節ごとに合った服装になれるように配慮しています。		

グループホームひだまりの丘(ユニット1)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は毎日の楽しみと思っていますので、栄養を考慮した品目になるようにしています。特に片づけは積極的に行ってもらっています。	利用者の能力に応じて、食事の準備や後片付けに参加し、職員と利用者が楽しみながら食事をしている。利用者の体調や状況に応じてミニサー食や刻み食等の工夫をして食事を楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の観察記録を取っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔内の清掃やうがいを行っています。現在は月に1度歯科医に訪問をしてもらいます。職員への口腔ケアの指導や、検査等を行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	車イスの方でも日中はトイレを利用してもらい、夜間はおむつ利用にしていたりと併用しています。	一人ひとりの排泄パターンを把握して、トイレへ誘導しながらできるだけトイレでの自立排泄を促している。リハビリパンツやパット等、状態に合わせた排泄用品で対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維や乳製品の摂取を食事に取り入れて便秘予防としています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	浴槽とは別に、シャワー浴も利用し、清潔の保持を行っています。	週2回以上の入浴を基本とし、利用者の希望や体調によって時間帯を考慮しながら支援をしている。入浴時には職員と気軽に話しながら、リラックスした入浴を心掛けている。拒否する場合は、職員を変えたり日時を変えたりして入浴できるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の大半の方が、自分のペースで就寝されるようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理は全てホームで行い、回数や飲み忘れのないように支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	簡単な片付けをお願いしたり、時折読書される方もいたりするので、雑誌を渡したりと支援しています。		

グループホームひだまりの丘(ユニット1)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外にかけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今期は外出の回数が少なかったですので、もっと要望に答えられる体制作りをしていきます。家族の方との外出は積極的に支援しています。	利用者の体調や状況を見ながら、町内の散歩や近隣のスーパーへ買い物に行ったり、地域の盆踊りや花火を見に行って外出の楽しみを提供している。家族と一緒にお盆、お正月に実家で過ごすのを楽しみにしている利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理はホームで行っていますが、買物時は本人に支払ってもらう事も行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話等は支援していますが、要望は少ない状態です。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまぬくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清掃に気を付け、温度管理にも配慮しています。	居間、食堂は吹き抜け天窓付きで柔らかい日差しが入り、明るくゆったりして、利用者は居心地よく過ごしている。調理室からは利用者の状況がわかり、安全面に配慮できるよう努めている。トイレや洗面所、浴室は常に清潔にしている。また、廊下には椅子を置き、歩行や運動機能を補えるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓テーブルのイスや、ソファーは自由に利用してもらっているので、自由に過ごしてもらっています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は基本的に自由に利用してもらっています。事故対策のために、物を減らしている入居者の方等もいます。	居室は広くて明るく、使い慣れた家具や備品を持ち込んでいる。自室でカラオケを楽しむ人や編み物をする人、それぞれ思い思い居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員の見守りで安全は大丈夫です。出来るだけ本人が出来る事はそのままやってもらいたいので、そういった支援をしています。		